

平成23年度

福岡市の教育施策

～ 福岡のすべての子どもが身につけてほしい大事なこと ～

福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」



福岡市教育委員会

福岡スタンダード推進キャラクター



スタンバード

【 標語 】

- 《 あいさつ 》  あいさつで 伝わる心と その笑顔
- 《 掃 除 》  おそうじで ぼくのこころも ピッカピカ
- 《 自 学 》  学ぶほど 見える世界は 広くなる
- 《 立 志 》  目標は 自分の夢への 第一歩

キャラクターのスタンバードと標語は、平成21年度に福岡市内の小中学生の応募作品の中から、選ばれたものです。

目次

| | | | |
|-----|-----------------------|-----|------|
| I | 平成23年度教育委員会運営方針 | ・・・ | P 1 |
| II | 重要施策 | | |
| 1. | たくましく生きる子どもの育成 | ・・・ | P 4 |
| | ア 確かな学力の向上 | | |
| | イ 豊かな心、健やかな体の育成 | | |
| | ウ 福岡の特性を生かした教育の推進 | | |
| | エ 市立高等学校の活性化 | | |
| | オ 不登校の子どもへの支援等の充実 | | |
| | カ 特別支援教育の推進 | | |
| 2. | 信頼される学校づくりの推進 | ・・・ | P 13 |
| 3. | 信頼に答え得る教員の養成 | ・・・ | P 14 |
| 4. | 社会全体での子どもたちの育成 | ・・・ | P 15 |
| | ア 子どもの安全確保に向けた取組の推進 | | |
| | イ 家庭・地域における教育の支援 | | |
| 5. | 教育環境づくりの推進 | ・・・ | P 18 |
| | ア 安心して学ぶことができる教育環境の整備 | | |
| | イ 教員が子どもと向き合う環境づくり | | |
| 6. | 人権教育の推進 | ・・・ | P 20 |
| 7. | 図書館・美術館・博物館事業の充実 | ・・・ | P 21 |
| 8. | 文化財の保存・活用 | ・・・ | P 22 |
| III | 教育委員会予算 | ・・・ | P 23 |
| IV | 教育委員会組織図 | ・・・ | P 24 |

基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と子ども像)をはぐくむとともに、全ての市民が輝き

《平成23年度
「新しいふくおかの教育計画」を着実に推進し、知・徳・体のバランス
美術館等ミュージアムの魅力向上や、福

《 予算 》

少人数学級や英語教育の推進など子どもたちの学力向上に向けた取組や、不登校ひきこもり対策、良好な教育環境整備などへ重点的に予算配分を行い、学校教育の充実を図るとともに、ミュージアムの魅力向上や、福岡城跡・鴻臚館跡の保存活用など長期的な視野に立った効果的な教育投資を行う。

平成23年度

《 学校教育 》 社会全体で子どもをはぐくむ「共育」を推進するとともに、本市の

1. たくましく生きる子どもの育成

ア 確かな学力の向上

- ◆少人数学級・一部教科担任制の実施、小中連携教育の推進
- ◆生活習慣・学習等定着度調査、小中学生の外国語教育の充実 など

イ 豊かな心、健やかな体の育成

- ◆新・子ども読書活動推進計画の策定、学校司書の効果的配置、体力向上、食育推進
- ◆ユニバーサル教育の推進(各学校に車椅子などを整備した福祉体験コーナーを設置) など

ウ 福岡の特性を生かした教育の推進

- ◆福岡らしい国際教育の推進(福岡・釜山教育交流推進:中学生、教員等の訪問・交流) など

エ 市立高等学校の活性化

- ◆高等学校キャリア教育支援事業、魅力ある高校づくりの推進 など

オ 不登校の子どもへの支援等の充実

- ◆不登校対応教員の1名増員(23名→24名)
- ◆スクールソーシャルワーカーの2名増員(6名→8名) など

カ 特別支援教育の推進

- ◆特別支援教育推進プランの策定、特別支援教育支援員の21名増(75名→96名) など

《 文化・芸術 》 市民が優れた文化・芸術に触れることができる環境整備に取り

7. 図書館・美術館・博物館事業の充実

- ◆図書返却サービスの実施(市役所1階情報プラザ、地下鉄博多駅、別府駅)
- ◆ミュージアム魅力向上(ミュージアムウィーク、HPリニューアル、3館連携パンフ作成)
- ◆美術館大規模改修基本計画策定、博物館常設展示室リニューアル実施設計着手など

委員会運営方針



志を持ち、心豊かにたくましく生きる子ども(めざす
活気あふれる社会や文化を創造する。

取組方針

スのとれた学校教育の充実を図るとともに、
岡城跡・鴻臚館跡など貴重な歴史・文化遺産の保存活用を行う。

《 組織 》

教育委員会の簡素で効率的な運営を進めつつ、目標実現に向け、機能的で柔軟な、
活力ある組織の構築を図るとともに、小中連携校開校など、良好な教育環境整備のた
めの体制を整える。

重要施策等

めざす子ども像の実現に向け、教育計画を着実に推進する。

2. 信頼される学校づくりの推進

- ◆副校長等の新たな職の拡充
- ◆学校公開週間の推進, 学校のHP充実 など

3. 信頼に応え得る教員の養成

- ◆指導力のある優秀な教員の養成, 優秀な英語教員の養成 など

4. 社会全体での子どもたちの育成

- ◆メディアリテラシーの育成, 学校の防犯カメラ設置
- ◆PTAと連携した家庭教育の推進 など

5. 教育環境づくりの推進

- ◆学校施設耐震化の完了, 学校規模適正化の推進(舞鶴中・住吉中ブロック)
- ◆学校給食センター再整備の推進(第1センター整備計画の推進)
- ◆校務情報化推進事業, 学校給食費未納対策強化 など

6. 人権教育の推進

- ◆学校における人権教育研修, 人権啓発地域推進組織の活性化 など

組むとともに、郷土福岡の歴史・伝統・文化の保存と活用を図る。

8. 文化財の保存・活用

- ◆福岡城跡・鴻臚館跡を市民へアピールする活性化事業
- ◆鴻臚館跡の整備(鴻臚館復元CGの作成)
- ◆吉武高木遺跡環境整備 など

新学習指導要領に基づく小学校教育が開始！

平成20年3月に文部科学省が「生きる力を育む」という理念のもと、学習指導要領を改訂し、平成23年4月から新学習指導要領に基づく小学校教育が始まります。
(中学校はH24年度から全面实施)

《基本的な考え方》

子どもたちの「生きる力」をよりいっそうはぐむことを目指し、「ゆとり」か「詰め込み」かではない、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」の両方を重視

その両方の力をバランスよく
伸ばしていくために・・・

1. 標準授業時数が増加されます

- ◆国語：1・2年生で週あたり8時間→9時間へ増加
- ◆体育：3・4年生で週あたり2.6時間→3時間へ増加
- ◆外国語活動：5・6年生で週あたり1時間新設

※ 社会、算数、理科についても増加されますが、福岡市は平成21年度から既に増やしています。

2. 教科書が充実されます (ページ数が平均25%増加)

3. 教育内容が改善されます

- ◆言語の力・理数の力や健やかな体を育成
- ◆外国語教育、伝統・文化に関する教育、体験活動や道徳教育を充実
- ◆一人ひとりの子どもの障がいの状態などに応じた指導を充実

《TOPICS》

福岡スタンダードの推進のため、横断幕をつくり、全ての市立学校・園で掲示しています。

みんなで取り組もう！

あいさつ・掃除 自学 立志

～福岡のすべての子どもが身につけてほしい大事なこと～

福岡市教育委員会



《教育委員会での取組の様子》



(平成22年度はあいさつ運動に取り組みました。
今後も福岡スタンダードの推進に取り組みます。)

《学校での取組の様子》



(上) 地域の方にあいさつ
をする子どもたち

(下) 舞松原小学校1/2成人式



重要施策

1. たくましく生きる子どもの育成

【取組の方向：教育の連携と充実】

子どもたちは、一人ひとりがこれからの社会を支え創造する大切な存在です。子どもたちが社会を支える市民となるために、あいさつ・掃除にはじまる基本的な生活習慣や、基礎・基本の学力、コミュニケーション能力、規範意識、そして物事に元気に取り組むことが出来る意欲や体力を、発達段階に応じてしっかりと身につけていきます。

| | | | |
|---|-----------------|-------------|-----|
| ア | 確かな学力の向上 | [743,502千円] | P 5 |
| イ | 豊かな心、健やかな体の育成 | [47,404千円] | P 7 |
| ウ | 福岡の特性を生かした教育の推進 | [28,499千円] | P 9 |
| エ | 市立高等学校の活性化 | [15,458千円] | P10 |
| オ | 不登校の子どもへの支援等の充実 | [395,280千円] | P11 |
| カ | 特別支援教育の推進 | [271,754千円] | P12 |

福岡スタンダードの推進



小中学校9年間を見通した指導のねらいと体制

| 区分 | 前期(小1～小4) | 接続期(小5～中1) | 後期(中2～中3) |
|------|-------------|-----------------------|----------------------------------|
| ねらい | 基本的な生活習慣の定着 | 学習意欲を高め、粘り強く学習する態度の確立 | 進路について目標を持ち、社会の中で自分を生かそうとする態度の育成 |
| 指導体制 | 学級担任制 | 一部教科担任制 | 教科担任制 |
| | 少人数学級 | 少人数指導 | 少人数学級(選択制) |



ア 確かな学力の向上

【今後の方向性】

義務教育9年間を「4年・3年・2年」の発達段階に応じた教育実践を推進することを踏まえ、全国学力・学習状況調査で把握した課題を基に、小中学校共通の学力向上プランを選択し、学習規律・習慣の育成や基礎・基本の定着等を発達段階に応じて取り組みます。

また、新学習指導要領に則り、外国語教育など内容の充実を行います。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 743,502千円

◆少人数学級を小学校1～4年生で実施

個に応じたきめ細かな指導を行うため、35人以下の少人数学級を実施（中学校1年生における少人数学級の実施はP11に記載）

（実績）H17：小1，H18：小2まで，H19：小3まで，H22：小4まで実施

◆一部教科担任制を小学校5・6年生で実施

児童の興味・関心に応える学習の提供や学習上のつまずきの克服など確かな学力の向上に向け、一部教科担任制を実施

（実績）H20～21：小4～6年生を対象に28校でモデル実施
H22：小5・6年生で本格実施

◆生活習慣・学習等定着度調査【新規】

学習内容の定着状況の把握や教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を行うために、小学校4・6年生及び中学校1・3年生を対象に、本市独自で問題を作成し、生活習慣・学習等定着度調査を実施

◆小中学校の外国語教育の充実【拡充】

生きた語学教育と国際理解教育を推進するため、小中学校で外国語教育を充実

【小学校】

- ・英語を母語とするゲストティーチャーの配置拡大（年9回→15～35回）
- ・外国語活動重点校を設置し、外国語活動のあり方を研究

【中学校】

- ・外国語指導講師の配置を充実（年13回→25回）
- ・英語能力判定テストや英語スピーチコンテストを開催

（ゲストティーチャーの授業の様子）



◆学力パワーアップ総合推進事業

《左記以外のこれまでの主な取組》

■小中連携教育の推進

平成21年度に策定した「福岡市小中連携教育指針」を基に、市内全ての中学校ブロックで小中連携教育を推進

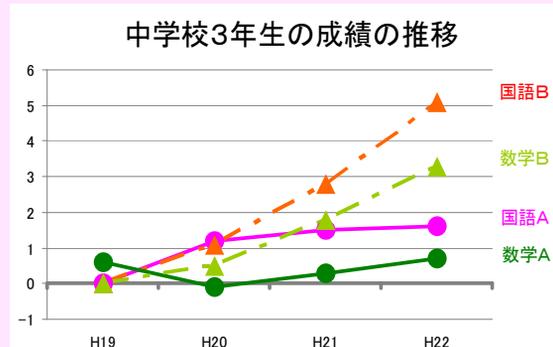
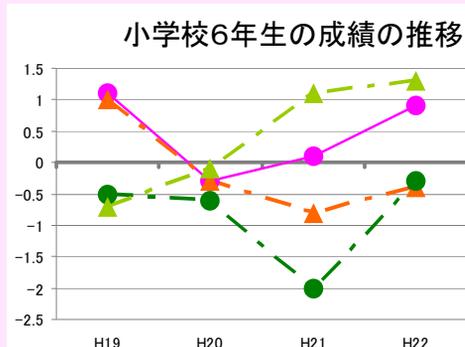
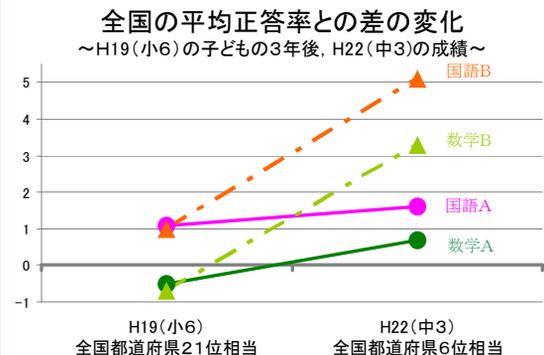
■小学校理科教育の充実

理科を中心とした一部教科担任制や理科支援員の配置，科学わくわくプランの実施により，科学への興味・関心を高める取組を推進

《これまでの成果》

■全国学力・学習状況調査で平成21年度に引き続き，H22年度も小中8分類中6分類が全国平均を上回り，特に平成19年度に小学校6年生の結果が都道府県順位21位相当だったものが，同じ子どもたちが3年後の中学校3年生となった平成22年度の調査では都道府県順位6位に相当する成績を収めるなど学力が向上

子どもたちの学力は 着実に向上しています！



全国平均を下回っている分野においても，学力が向上く，全ての分野で全国平均を上回り，成績も上がっています。など，全ての分野で着実な学力の向上が見られます。

※ 全国平均正答率を0とし，全国平均と何点の差があるのかをグラフで表しています。

イ 豊かな心, 健やかな体の育成

【今後の方向性】

道徳教育の充実やユニバーサル教育の推進を図り、相手の思いを受け止め、互いが生かされる関係をつくるコミュニケーション能力を高めるとともに、社会体験や自然体験など、さまざまな体験を通して価値判断の基準や感性・情操、思いやりの心などを育てます。

また、新体力テストにより児童生徒の体力の実態を把握し、体力向上の取組や運動部活動の充実を図るとともに、学校・家庭・地域と連携した食育を推進します。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 47,404千円

◆「ことば響く街ふくおか」推進事業

豊かな人間関係の形成や国語力の充実を図るために後期用「音読・朗読ハンドブック」を新たに作成・配付



(実績) H21:前期用「かがやき」を作成・小1～3年生に配付

H22:接続期用「はばたき」を作成

言語活動指導の手引き「教室から創る言語活動」を作成

◆読書活動の推進

新・子ども読書活動推進計画を策定し、読書フォーラムなど市民との共働による事業の実施や、家庭・地域・学校・図書館等と連携した日常の取組を充実
また、学校司書についても効果的に配置し、子どもの読書活動を推進

(実績) H20:小学校30校, H21～22:小中学校60校(30中学校ブロック)に学校司書を配置

◆ユニバーサル教育推進事業【新規】

各学校に車椅子などを整備した福祉体験コーナーを設け、総合的な時間や道徳の時間等を活用して、相手をいたわり思いやる心の素地を育成

◆子どもとメディアのよい関係づくり事業【新規】

子ども期における過剰なメディアへの接触が、心身の発達に悪影響を与えている実態を踏まえ、学習会への講師派遣や講演会,出前講座の開催など意識啓発を展開

◆食育の推進

◆おっしょい!元気ツズパワーアッププラン



《左記以外のこれまでの主な取組》

■ 1/2成人式(小学校4年生), 立志式(中学校2年生)

福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」を推進するための取組のひとつとして, 将来への夢や目標をもつ意識を育成



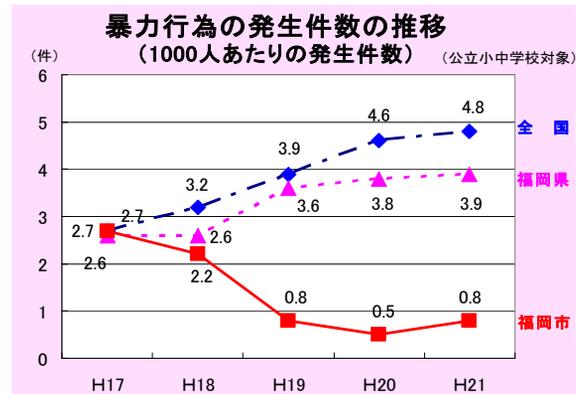
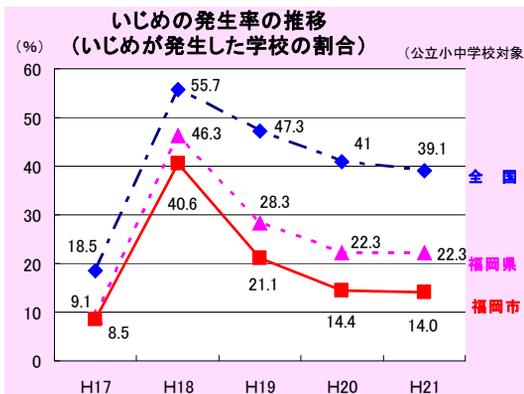
(博多中学校立志式)

■ 豊かな心の育成

「心のノート」の活用, 非行防止学習の実施, 自然教室の実施, メディアリテラシーの育成(「インターネットの有害情報への対応」DVDや児童向けリーフレットを活用)

《これまでの成果》

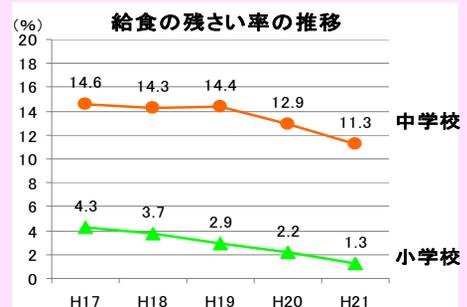
- 平成19年度より, 学校での規範意識教育の充実及び学校と警察との連携強化により, 全国では増加傾向にある暴力行為の件数が減少し, 現在も低い水準にある。また, いじめの発生件数も, 本市では低い水準にある。



- 「子どもの読書活動に関する意識調査」の結果では, 読書が好きという子どもが8割を占めており, 好きな本の種類の1位は「小説や物語」, 2位は「マンガ」となった。(前回調査(H16)では, 1位が「マンガ」, 2位が「小説や物語」)

- 最優秀メニューを実際の給食に取り込む「給食コンテスト」や, 食べ残しの給食を家畜飼料の原料などにする「給食残さいリサイクル」に取り組み, 食を大事にする心や食への感謝の気持ちを育成

給食の食べ残しが減っています！



(全国学力・学習状況調査より)

ウ 福岡の特性を生かした教育の推進

【今後の方向性】

福岡市が持つ自然や歴史、文化的・社会的資源を最大限に活用し、学校教育の内容と方法に広がりや深まりを持たせます。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 28,499千円

◆福岡らしい国際教育の推進(福岡・釜山教育交流事業)

子どもたちの国際理解教育の素地を培うために、釜山広域市教育庁と教職員や生徒の相互交流を実施。

(実績) H21：釜山広域市教育庁と「教育交流に関する覚書」を締結
小学生向け副読本を作成

H22：釜山広域市から来福した教職員、中学生相互交流や公開授業を実施



(釜山市から派遣された教員による授業の様子)



(英語の公開授業で意見を述べ合う福岡と釜山の中学生)



(日本語版)
副読本「もっと知りたい福岡・釜山」



(韓国語版)

◆特色ある教育の推進

地域に愛着と誇りを持ち地域の中で健やかに育つ児童生徒を育成するために、地域人材や社会施設等の活用など地域と連携した特色ある教育活動を推進し、学校教育の一層の活性化を促進

◆「学生サポーター」制度活用

学習指導・学校行事補助、部活動補助、障がいのある子を支援するため、協定を結んだ大学から学校に「学生サポーター」を派遣（協力大学は18校）

◆職場体験学習事業

勤労観・職業観の育成を図るため、全中学校で2年生を中心に、学校や地域の実態に応じて3日間程度の職場体験学習を実施

◆埋蔵文化財センター出前授業

小・中学校・特別支援学校において、市内遺跡からの出土品を活用するなど、歴史や文化を生かした教育を推進

エ 市立高等学校の活性化

【今後の方向性】

進学や就職など生徒の多様な進路希望に応える教育内容を提供し、生徒の進路実現を支援するとともに、中学生や市民から必要とされる魅力ある高校づくりを推進します。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 15,458千円

◆高等学校キャリア教育支援事業

生徒の勤労観・職業観を育成するため、福翔高校でのスチューデントカンパニー・プログラムの実施や、進路講演会を開催するなど市立高校におけるキャリア教育を推進



(スチューデントカンパニーの株主総会の様子)



◆進路実現プロジェクト

社会人講師の招致や進路指導員の配置、教員の授業力向上のための研修の実施や、民間教育機関が主催するセミナーへの教員派遣など生徒の進路実現に向けた取組の推進

(実績) H21から進路指導員を1名配置

◆魅力ある高校づくり推進

各学校の特色を生かした魅力ある市立高校づくりを推進するとともに、学科改編など市立高校の改革に向けた検討を実施

また、市立高校4校の合同パンフレットを作成するなど広報を充実



【福岡市立福岡西陵高校管弦楽部】
(於)福岡アクロスシンフォニーホール

オ 不登校の子どもへの支援等の充実

【今後の方向性】

「中1ギャップ」への的確な対応を図るために、中学校1年生における少人数学級の実施や不登校対応教員の配置を進めるとともに、小中連携や家庭、関係機関との連携を図るなど、不登校生徒への支援の充実に取り組みます。

≪平成23年度の主な取組≫

【予算】 395,280千円

◆不登校対応教員を1名増員【拡充】

不登校生徒に対する適切な指導・支援を専任的に取り組む不登校対応教員を1名増員し、中学校に24名配置

(実績) H21: 20名配置, H22: 23名を配置

◆スクールソーシャルワーカーを2名増員【拡充】

中学校区を活動範囲とするスクールソーシャルワーカーを2名増員し、小学校8校に配置

(実績) H20: 2名配置, H21: 4名配置, H22: 6名を配置

◆スクールカウンセラー, 心の相談員の継続配置

スクールカウンセラーを中学校67校, 高校4校に配置
未配置中学校2校(小呂中, 玄界中)に心の教室相談員を配置

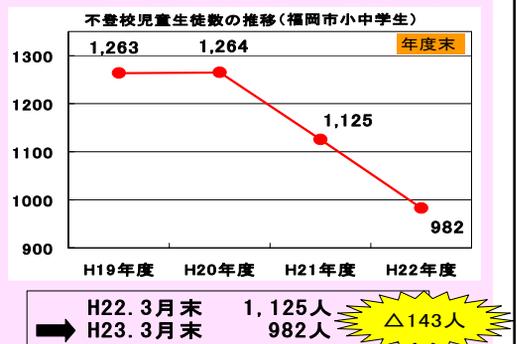
◆中学校1年に少人数学級実施

確かな学力の向上, 中1ギャップへの対応, 不登校発生の予防などを図るため, 中学校1年生で選択制による少人数学級を実施

≪これまでの成果≫

- 平成20年度に「不登校ひきこもり対策支援会議」を設置。同会議の提言を受け、平成21年度からさまざまな取組を行い不登校生徒数が減少している。

不登校生徒数の減少!



カ 特別支援教育の推進

【今後の方向性】

「障がい等のある児童生徒の自立と社会参加」を一層促進するために、校内支援体制を整備するとともに、特別支援学校における教員の専門性の向上とセンター的機能の充実を行います。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 271,754千円

◆特別支援教育推進プランの策定

平成15年度に策定した「福岡市障がい児教育プラン」の総括を行い、今後の特別支援教育の方向を示す「特別支援教育推進プラン」を策定

◆特別支援教育支援員を21名増員【拡充】

幼・小・中・高等学校に在籍するLD（学習障がい）やADHD（注意欠陥多動性障がい）等、障がいのある児童生徒の支援体制を充実するために特別支援教育支援員を21名増員し、96名配置

（実績）H20：37名，H21：60名，H22：75名を配置

◆博多高等学園移転整備

平成25年4月の開校に向け、博多区大浜小跡地で新校舎の建設に着手

《上記以外のこれまでの主な取組》

■特別支援学級及び通級指導教室の整備

（H22までの特別支援学級整備状況）

- ・知的障がい（小学校98校，中学校44校）
- ・肢体不自由（小学校3校，中学校2校）
- ・病弱・身体虚弱（小学校6校，中学校5校）
- ・弱視（小学校1校）
- ・自閉症・情緒障がい（小学校6校，中学校3校）

■交流及び共同学習の充実（副籍制度の実施）

特別支援学校に入学する児童生徒を対象に、居住する地域の小・中学校に副籍を置き、交流及び共同学習（居住地校交流）をさらに推進

《これまでの成果》

- 支援員の配置により、落ち着いて学習に参加できるようになり、友達とのトラブルが減るなど、学習面・生活面が改善し、学習への集中度や参加意欲が向上した。
- 特別支援学級の新設により、居住する地域の近隣の学校で児童生徒の心身の発達状況に応じた指導を行うことができた。

2. 信頼される学校づくりの推進

【取組の方向：組織体制の充実と魅力ある学校づくり】

校長を中心とした組織的・協働的な学校経営を推進し、学校の組織力の強化に取り組むとともに、地域と連携し、開かれた信頼される学校づくりを進めます。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 16,653千円

◆副校長等の新たな職の拡充

平成20年度から新たな職を設置し、平成23年度は小・中・特別支援学校に141名（副校長5名、主幹教諭123名、指導教諭13名）を配置

平成23年度から新たに高等学校に副校長4名、幼稚園に副園長2名を配置

◆異校種間人事交流の推進

小－中学校間、特別支援学校－小中学校間など、異校種間の人事交流を推進

◆学校公開週間の推進

毎年11月1日～7日に市立学校・園を地域住民等へ公開

◆学校のホームページの充実

開かれた学校づくりを推進するため、「学校経営方針」「本年度の目標・重点」「学校評価」等を学校のホームページに掲載するなど広報の充実

◆学校評価の充実

「学校運営改善」「信頼される開かれた学校づくり」「教育の質の保証・改善」のため、各学校で実施する学校評価を充実

《上記以外のこれまでの主な取組》

■学校で発生する諸問題の早期解決のため、平成20年に学校問題解決支援会議を設置し、問題解決に向けた対応方針の策定や弁護士による法的助言を実施。また、平成21年度には、保護者等対応の手引き「信頼される学校を目指して」を作成

3. 信頼に答え得る教員の養成

【取組の方向：教員の資質や指導力の向上】

確かな力量と豊かな人間性を備え、使命感を持って子どもたちを導くことができる教員の確保と指導力の向上を進めます。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 95,464千円

◆優れた資質のある人材の確保

今後の教員の大量退職に対応するため、採用試験の工夫・改善や、受験者確保の取組を進め、優れた資質のある人材を確保

(実績)

- ・ 教員採用試験で特別選考を実施（教職員経験者、社会人等のほか5区分）
（採用者数）H20実施：11人、H21実施：18人、H22実施：17人
- ・ 高等学校に民間出身の教頭を2名採用（H21）



◆教員研修の充実、及び研究・研修の支援

教職経験や職能、課題に応じた指導力向上を図る研修講座を実施
授業力向上支援センターの環境を整備

◆優秀な英語教員の養成【新規】

福岡らしい国際教育を推進するために、英語リーダー研修を実施し、英語教育等を推進する中核的教員を養成

◆体罰によらない教育の推進

温かい人間関係と信頼に基づく教育に取り組むために各学校で研修を実施

(実績) H21：研修冊子・リーフレット「体罰によらない教育のために」作成



(採用候補者事前研修の様子)



(わかる授業づくり:中学校家庭)

4. 社会全体での子どもたちの育成

【取組の方向：家庭教育支援と就学前教育の展開，
地域・企業等における子育て支援の推進】

学校，家庭，地域・企業等が連携し協力しあいながら子どもたちを育ていく取組を進めます。



ア 子どもの安全確保に向けた取組の推進

《平成23年度の主な取組》

【予算】 27,089千円

◆メディアリテラシーの育成

インターネット・携帯電話を介した有害情報から児童生徒を守るため，保護者や地域への啓発活動を実施

(実績) H20：保護者用DVD，教員用指導資料集を作成

◆地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

学校内外において子どもの安全を見守るスクールガード(学校安全ボランティア)を養成し，地域ぐるみで学校の安全に関する取組を推進

◆学校の防犯カメラの設置【新規】

学校への不審者侵入対応や犯罪発生の抑止を目的として，全市立学校(園)に防犯カメラを段階的に設置(平成23年度は40校に設置)



(学校の防犯カメラとモニター)

◆小学校1年生への防犯ブザーの配付

登下校の安全確保などを図るため，小学校の児童に防犯ブザーを配付

(実績) H19までに全児童に配付，H20以降は小学校新1年生に配付

《これまでの成果》

■平成22年度末時点で，小学校146校のうち138校がスクールガードの取組を実施するなど学校と保護者，地域が連携して，地域社会全体で学校安全に取り組む体制づくりが進んでいる。

イ 家庭・地域における教育の支援

《平成23年度の主な取組》

【予算】 10,268千円

◆PTAと連携した家庭教育支援事業

小中学校の入学説明会時の学習会やPTA研修事業などPTAと連携した家庭教育支援事業を実施

◆学校支援地域連携事業

教員が子どもと向き合う時間を確保するため、学校と地域の連携体制をつくり、地域全体で学校を支援する体制を構築

また、地域の教育力の向上を図るため、団塊の世代など地域の様々な人材を活用し、地域の連帯感を形成

(実績)

- ・外部人材招聘人数(1校あたりの平均人数)H20:207人, H21:806人
- ・モデル事業の実施(H21~22年度)

地域ボランティアと連携し、モデル校10校(小学校7校, 中学校3校)で花壇整備や学習支援など学校を支援する活動を実施

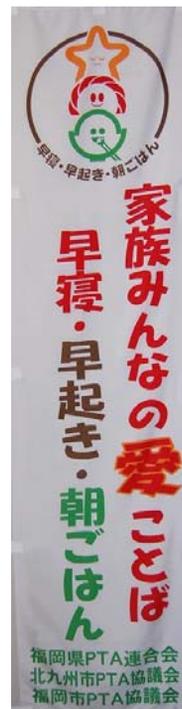
《これまでの成果》

■家庭教育を家庭のみの問題として捉えず、地域や学校を含め社会全体で家庭教育を支援した結果、生活リズムが向上するなど基本的な生活習慣の確立に効果があった。

朝食をきちんと食べている子どもが増えています！



(全国学力・学習状況調査より)



(啓発用にPTAが作ったのぼり)



家庭学習と基本的な生活習慣の定着のためのパンフレットを学校を通じて各ご家庭に配付しています

ふいかえろう 毎日の子育て!



福岡市 家庭教育 10か条



福岡市PTA協議会と教育委員会が協力して作成

- 一、子育ては 誉めて 叱って 見守って
- 一、聴きましょう 子どもの話を最後まで
- 一、「ありがとう」「ごめんなさい」 素直な気持ちを大切に
- 一、基本です「早寝・早起き・朝ごはん」
- 一、明るく元気に笑顔の「おはよう」
- 一、ふれあおう 親子で スポーツ 外遊び
- 一、いっしょに読もう「子どもと本の日」
- 一、話しあおう ケータイの必要性 決めよう 使用のマナーとルール
- 一、声かけて 習慣づけよう 家庭学習
- 一、すすんでやろう 整理整頓

家庭，地域・企業等のみなさまへ～「共育」へ向けて～

子どもたちは学校だけでなく、家庭や地域の中で様々な体験をしたり様々な人々と関わったりしながら学び、成長していきます。

そこで、学校、家庭、地域・企業等それぞれが教育の主体（担い手）としての責任を持つとともに、社会全体で共に教育に取り組む「共育」が必要です。

○子どもに基本的な生活習慣を身につけさせ、責任をもって豊かな心や健やかな体を育む温かい家庭であることが望まれます。

学校

○子ども一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む学校教育をめざします。

「共育」

家庭

地域
企業等

○子どもが健全に成長するよう見守るとともに、積極的に教育活動に協力し参画することが望まれます。

5. 教育環境づくりの推進

【取組の方向：教育委員会事務局の学校、家庭等への支援力の強化】

学校が主体性を持ち、充実した教育を行うことができるよう学校の教育活動への支援や家庭への啓発を進めます。また、教育効果が十分発揮できるよう施設整備等を行います。

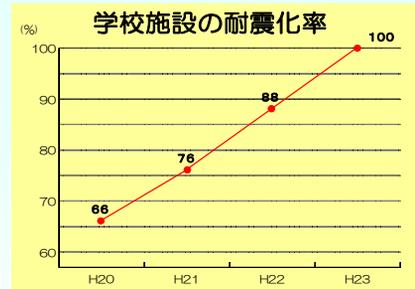
ア 安心して学ぶことができる教育環境の整備

《平成23年度の主な取組》

【予算】 9,297,767千円

◆学校施設の耐震化

校舎及び講堂等の耐震化を平成23年度の完了を目標に事業を推進



◆学校規模適正化の推進

小規模校や過大規模校の課題解決のため、学校規模適正化を推進

【舞鶴中ブロック】

H26年度の開校を目指し、小中連携校の実施設計を推進、建設工事に着手

【住吉中ブロック】

H27年度の開校を目指し、小中連携校の基本計画・基本設計などに着手

(実績) H20:「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」策定

H21～22:対象校区への説明や小中連携校の基本構想・基本設計等に着手

◆学校給食センター再整備

平成26年度の第1センター稼働に向けて、用地取得準備や事業者選定手続き等を実施（市民説明会開催、事業者選定資料作成、地盤・測量調査等）

(実績) H22:「再整備基本構想」及び「第1センター整備計画」を策定

◆夏期の暑熱対策

平成20年度より段階的に進めてきた、普通教室への天井固定型扇風機の設置について、平成23年度に完了予定（H23は約1,200教室に設置予定）

(実績) H20～22:2,024教室に設置

《これまでの成果》

■扇風機を教室に設置したところ「涼しい」「暑さが緩和された」「学習効率が上がった」「他の教室にも導入してほしい」等の声が寄せられている。

(平成20年度アンケートより)

イ 教員が子どもと向き合う環境づくり

《平成23年度の主な取組》

【予算】 191,904千円

◆校務情報化推進事業

平成24年度までに全教員へパソコンを整備していくとともに、校務の効率化や教材の共有化等による教育の質の向上に資する情報システム導入を検討

◆学校問題解決支援事業

「学校保護者相談室」「学校問題解決支援会議」や、弁護士による緊急相談等を実施するとともに、学校の対応能力向上のための研修等を実施

《上記以外のこれまでの主な取組》

■給食費未納対策強化

給食の円滑な運営と保護者間の公平を保つため、平成19年度から教育委員会事務局において法的措置を含めて対策を強化

■給食費の公会計化

学校給食事務の透明性の向上、保護者負担の公平性の確保、学校事務の負担軽減等を図るため、平成21年度より給食費を教育委員会事務局で一体的に運営する公会計化を実施

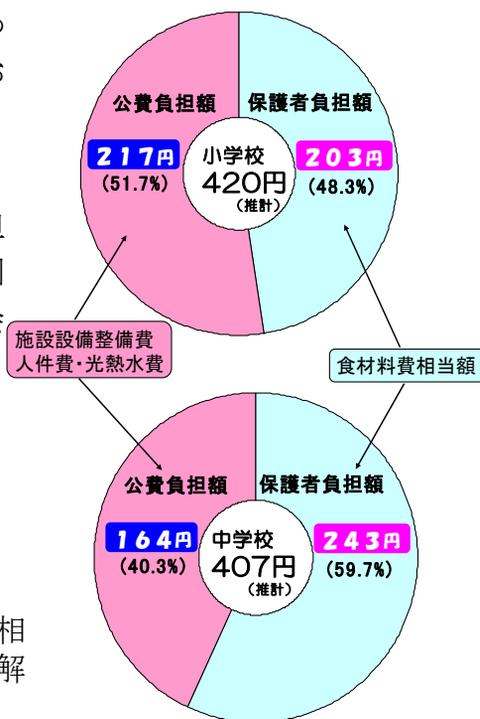
《これまでの成果》

■教員用パソコンは平成22年度末で7割整備。教員の「子どもと向き合う時間の確保」に大きく貢献している。

■弁護士等も交えての学校支援、保護者向けの相談室の周知・活性化により、学校問題の早期解決等に貢献している。

■滞納給食費について平成21年度末までに、1,751世帯（156,402千円）に最終催告を行い、836世帯から84,440千円の納付及び納付誓約を得る。

学校給食費の負担割合等
(1食あたり)



6. 人権教育の推進

【取組の方向：「福岡市教育委員会人権教育推進計画」 に基づく人権教育の推進】

「福岡市教育委員会人権教育推進計画」に基づき、学校教育においては学校の教育活動全体を通じて人権教育の積極的な推進を図るとともに、社会教育においては基本的人権の尊重を基調とする総合的な視点に立った人権教育を推進します。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 98,094千円

◆学校における人権教育の研修

教職員の人権問題に対する正しい理解・認識と人権意識の高揚を図るため、学校、研究団体の研修を推進

◆人権啓発地域推進組織育成

補助金の交付や全市交流会の開催などを通して、人権啓発地域推進組織を育成・支援

◆地域の教育力活性化事業

基本的な生活習慣の定着等、保護者の家庭教育に関する学習を行う地域グループや、様々な人権課題当事者の社会参加を促進する学習活動を行う地域グループに助成

《上記以外のこれまでの主な取組》

- 人権教育読本「ぬくもり」の活用
- 社会教育における様々な取組(PTA人権教育研修など)
- 社会教育専門職員等の研修講座 など



(福岡市人権読本研修委員会編集)

《これまでの成果》

- 児童生徒の人権問題に対する認識と理解が深まり、確かな人権感覚などを身につけた児童生徒の育成や、教職員の資質向上が図られている。
- 社会教育における様々な取組(PTA人権教育研修など)により、市民の人権問題に対する理解と認識は一定の深まりを見せている。
- 市民主体の人権啓発地域推進組織の活動が全市142組織で取り組まれている。

7. 図書館・美術館・博物館事業の充実

【取組の方向：市民生活を豊かにする生涯学習の推進と文化・芸術の活性化】

図書館では、市民の多様化，高度化する学習活動に必要な資料・情報を収集し提供するとともに，利用者の利便性向上を図ります。

また，美術館，アジア美術館，博物館では，市民が優れた文化・芸術に身近に触れる機会を提供するとともに，ミュージアムの魅力向上に取り組みます。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 403,666千円

◆図書館資料収集等

市民の教育，学術・文化の発展に寄与するため，図書資料，文書資料，映像資料の収集・整理・保存・利用サービスを実施

◆ミュージアムの魅力向上

第3回福岡ミュージアムウィークを開催し，講演会やスタンプラリー等を実施するとともに，美術館・アジア美術館・博物館のポータルサイトの開設や，3館連携パンフレットの作成など発信力を強化

また，文化芸術振興拠点・集客交流拠点として，さらに魅力あるミュージアムにするため，施設のリニューアルについて検討

- ・美術館大規模改修の基本構想及び基本計画策定
- ・博物館リニューアル(常設展示室リニューアル，体験学習室等の改修)

《上記以外のこれまでの主な取組》

■西部図書館の開館

平成22年7月に市の多目的施設サイトピア内に西部図書館を開館

■図書返却ポストの設置

平成22年8月に福岡市役所1階情報プラザ及び地下鉄博多駅，別府駅のお客さまサービスセンター内に返却ポストを設置し，利用者サービスを向上



【図書返却ポスト】



■美術館でキッズコーナーの設置やテラスの開放を実施

親子が気軽に楽しむことができるよう「キッズコーナー森のたね」を設置するとともに，市民の憩いの場となるよう2階テラスを市民に開放

8. 文化財の保存・活用

【取組の方向：福岡の歴史・伝統・文化の継承と活用】

市民の郷土に対する誇りと愛着を醸成するとともに、貴重な文化財や歴史資料を市民の財産として後世に継承するため、郷土福岡の歴史・伝統・文化の保存と活用を図ります。

《平成23年度の主な取組》

【予算】 129,999千円

◆福岡城跡・鴻臚館跡活性化事業

福岡城跡・鴻臚館跡に対する理解を深め、次世代へと継承される環境を醸成することを目的に市民団体との共働による歴史的建造物の公開やシンポジウムの開催など文化財の積極的な公開・活用を推進

- ・福岡城跡保存管理計画策定
- ・鴻臚館跡整備の基本構想策定の検討材料となる復元推定図(CG)を作成

(実績) 平成12年に焼損した「福岡城下之橋御門」を平成20年度に復元、鴻臚館跡遺跡整備



(第24回福岡市都市景観賞に選ばれた福岡城多聞櫓)

◆吉武高木遺跡の環境整備

吉武高木遺跡整備指導委員会で発掘調査の成果に関する報告を行うとともに、平成21年度に策定した吉武高木遺跡整備基本設計を踏まえ、整備活用に関する調査検討を実施

◆市史編さん事業

資料の調査・収集・整理、市史の刊行（近現代・民俗）



新修福岡市史―特別編
福岡の民
暮らしのなかに技がある



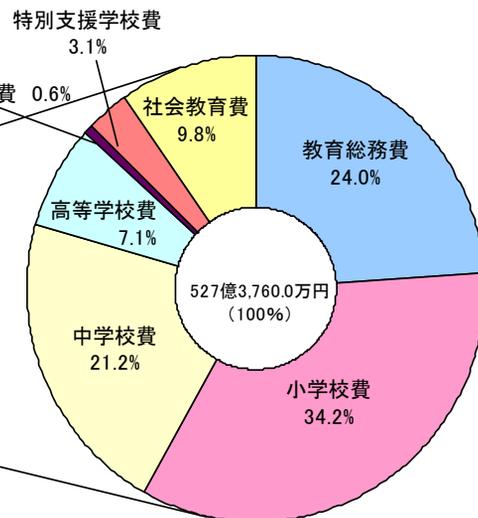
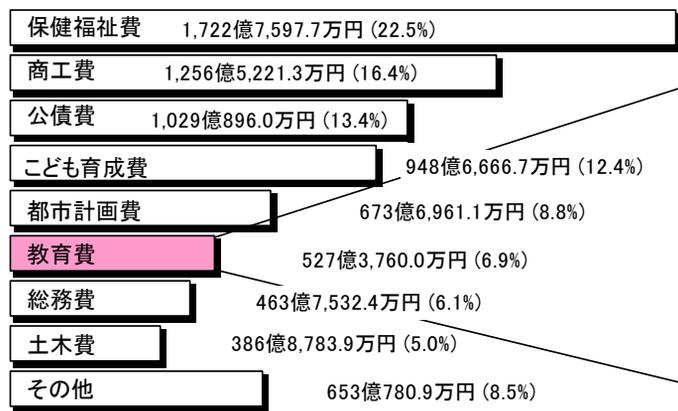
新修福岡市史
資料編 中世 ①
市内所在文書

教育委員会予算

平成23年度の教育費の金額と過去5年間の推移

①平成23年度 福岡市一般会計 歳出予算と教育費の内訳

一般会計総額 7,661億8,200万円



平成23年度の一般会計予算は、7,661億8,200万円で、前年度と比較すると、275億3,400万円、3.7%の増となっています。そのうち、教育費は、527億3,760.0万円で、前年度と比較すると18億667.1万円、3.5%の増となっており、一般会計に占める割合は、6.9パーセントとなっています。

②教育費の過去5年間の推移

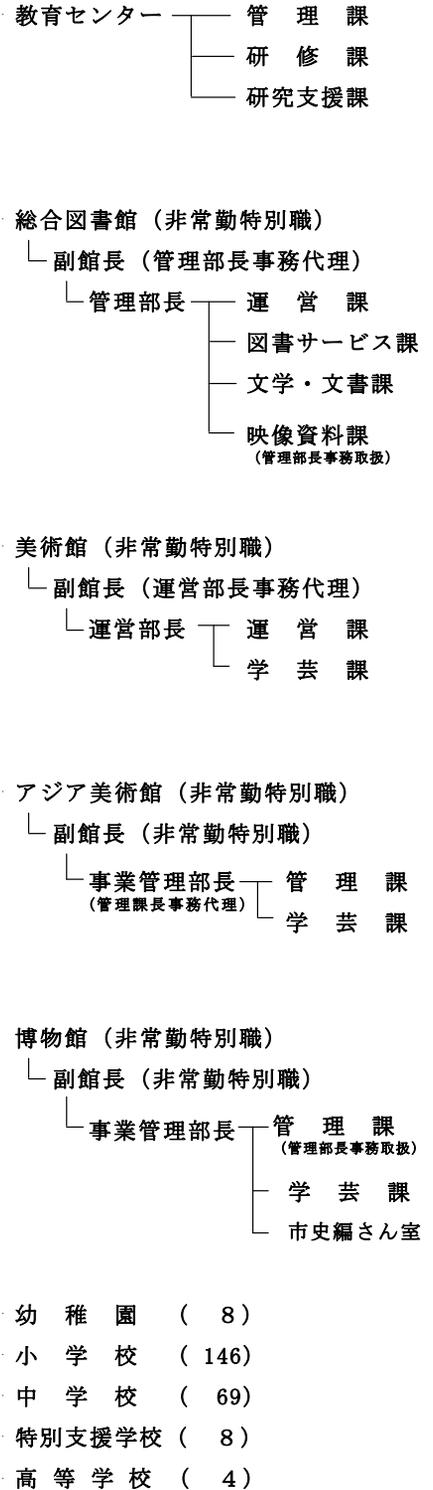
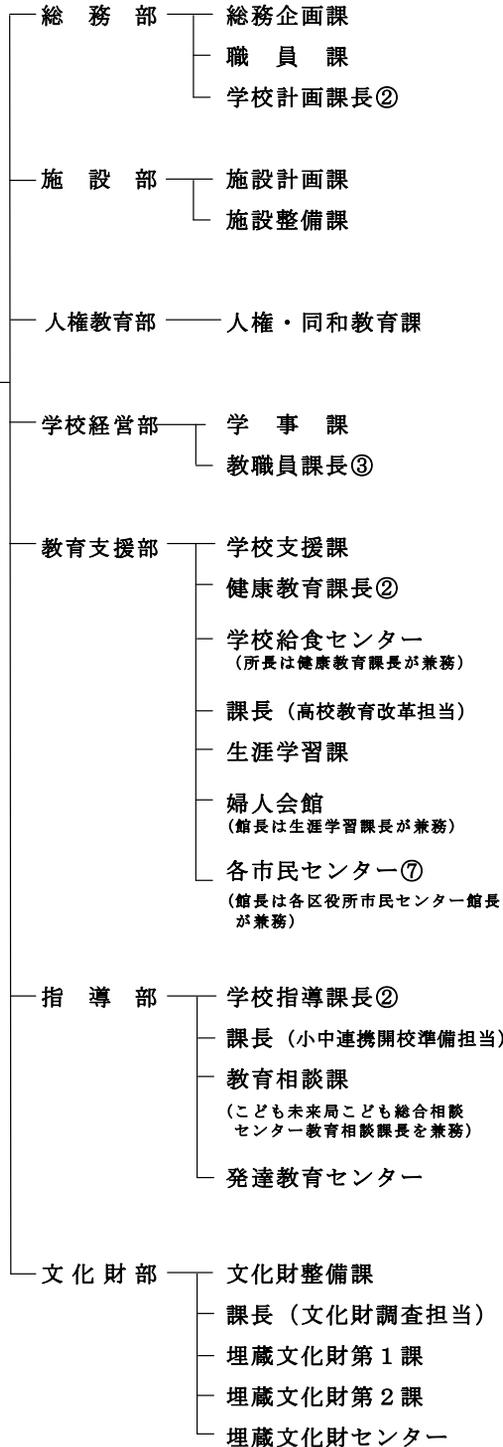
| | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 教育費 | 426億407.4万円 | 454億7,405.8万円 | 502億4,654.7万円 | 509億3,092.9万円 | 527億3,760.0万円 |
| (一般会計に占める教育費の割合) | (6.3%) | (6.9%) | (7.2%) | (6.9%) | (6.9%) |
| 一般会計 | 6,740億4,100万円 | 6,637億8,700万円 | 6,922億3,700万円 | 7,386億4,800万円 | 7,661億8,200万円 |

教育委員会組織図

教育委員会

委員長 八尾坂 修
 委員 森 重隆
 (委員長職務代理者)
 委員 大田 夏美
 松原 妙子
 阿部 晶子
 教育長 酒井 龍彦

教育次長
 理事



平成23年度

福岡市の教育施策



福岡市の教育施策 平成23年4月

編集・発行 福岡市教育委員会総務部総務企画課
福岡市中央区天神1丁目8番1号
電話 092-711-4605

ホームページ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyouiku/>